

令和4年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

<調査研究報告書タイトル>

放課後児童クラブの医療的ケア児を含む障害児の受け入れ体制及びインクルージョンの推進に関する調査研究

<実施主体名>

三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社

1. 事業目的

障害の有無に関わらず、放課後児童クラブ(以下、「クラブ」とする)において育成支援が実施できるような取組が必要とされており、国は、障害児等の受け入れ推進のため、放課後児童健全育成事業において、環境整備や人的配置への補助を拡充してきた。障害児を受け入れるクラブ数及び利用する障害児数は年々増加するものの、現状では医療的ケア児の受け入れは限定的であり、障害児等の受け入れ体制や育成支援のあり方について検討が必要である。本調査研究では、今後の施策検討の基礎資料を作成することを目的として、クラブにおける障害児等の受け入れ状況等を把握し、インクルージョンの推進に向けた検討を実施した。

2. 事業概要

①プレヒアリング

調査設計にあたり、クラブでの障害児等の受け入れ、課題等に関する情報収集を目的として、障害児等の受け入れに積極的な自治体及びクラブ、当事者団体、有識者を対象にヒアリング調査を行った。

②アンケート調査

クラブにおける障害児等の受け入れプロセス、受け入れ状況、課題、支援ニーズ等の量的な整理を目的として、市町村、障害児等を受け入れるクラブ、クラブを利用する障害児等の保護者を対象にアンケート調査を行った。

③ヒアリング調査

障害児等の受け入れに関する具体的な取組状況等の把握を目的として、市町村、クラブを対象にヒアリング調査を行った。

④検討委員会の設置・運営

有識者、自治体及びクラブ関係者6名で構成する検討委員会を5回開催した。

3. 事業実施結果

本調査研究では、クラブを利用している障害児等の特性、受け入れフロー、体制・環境整備の状況、課題等の実態を網羅的に把握し、整理した。調査結果より、自治体やクラブの取組、工夫によって、障害児等が幅広くクラブを利用し、多様な活動に取り組む実態が把握できた。一方で、利用制限のある障害児等の存在や受け入れに関する自治体、クラブそれぞれでの課題も明らかとなった。

今後の受け入れ推進に向けては、自治体からクラブに対する人材配置・育成や他機関連携等の支援や、保護者への情報提供及び放課後の過ごし方に関するコーディネートの実施、クラブにおける育成支援の充実、小規模自治体に対する広域支援等の必要性が示唆された。